

私のモチーフ

ワクワク出来る物・求めて

会員 瀧井 利子

モチーフについての課題を出され
引き受けた事に後悔の中書き始めて
います。

ここ数年の会誌を読み返すと尚一
層きちんと考へて選んでいたのだろうかと考えさせられてしましました。

高校の時、木下邦子先生の教室で
与えられたモチーフを描き始め、高
校卒業と同時に示現会展に出品。最
初の作品は「干物」。干しカレイや
身欠きニシンなど描き慣れているか
らこれで、と何も考へないまま初入
選。一室の二段掛けに飾られたとの
事。作品を見る為に上京など夢にも
思わない時期。しかし、振り返ると、
与えられて描きながらも、身近な物
ばかりに目を向けてきたようです。

旅で見つけてきた高松の宮内ふさ
さんの張り子などを「私のたからも
の」として随分長く描きました。赤
や緑、ピンク、青など色鮮やかであ
りながら素朴、ただ好きだからだけ
ます。ただ物を描くことではいけな
いが家の大切な番犬？の小次郎も出入



▲ 「私のたからもの」

でそこから何を伝えたいなど考へも
せず描いていたようです。

先生からは赤の使い方、色の流れ

などを厳しくご指導頂きました。先

生のご紹介で入った仕事が当時先駆

けのインテリア関係の家具屋でし

た。海外の雑貨や、家具の中で過ご

した事は本物を見る力、色の使い方

などをほんの少し養ったように思い

ます。ただ物を描くことではいけな

い場所はないかと探し
た揚句地下室に辿
り着きました。

ガラガラと自宅隣

にある実家の地下室

のシャッターを上げ

ると父のいた作業場

の現場になります。

我が家の大好きな番



▲ 「私のたからもの」

鉢、ぼろぼろの机、二階まで伸びた
キーウイの蔓と組み合わせ、立った
り座りこんだ
り。ベランダ
にイーゼルを
立て、実際に
目の前に物が
ないと描け
ず、夏は暑く、
冬は寒い中頑
張つていまし
たが、残念な
がら雨の日、
夜は描けな
く、どこかい

冬はジャンパーを着込み夏は画材
用の古い扇風機を回すだけの環境の
中にいます。薄暗い地下室は蛍光灯
の光しかなく外に持ち出して見ると
見え方が違う為、工事用のスポット
に立てるのは二十時以降。

冬はジャンパーを着込み夏は画材
用の古い扇風機を回すだけの環境の
中にいます。薄暗い地下室は蛍光灯
の光しかなく外に持ち出して見ると
見え方が違う為、工事用のスポット

り自由なゴミほどくりの場所です。
道路より四メーター程低く、裏山
から梅雨時には山水が押し寄せる湿
気の多い土地の為天井を高くした地
下室で、夏冬ある程度一定の温度が
保たれ、雨風の心配がなく、昼夜構
わず制作できる場所です。但し、そ
こは子供のころ住んでいた建物の機
材等の倉庫として利用し、壁はコン
クリートの打ちっぱなしのままの状
態で、蛍光灯の本数も少なく薄暗い
状態です。薪を切る為の電動のこ
万力・空き缶などが雑然と置かれて
います。仕事や母の介護でその場所
に立てるのは二十時以降。

から梅雨時には山水が押し寄せる湿
気の多い土地の為天井を高くした地
下室で、夏冬ある程度一定の温度が
保たれ、雨風の心配がなく、昼夜構
わず制作できる場所です。但し、そ
こは子供のころ住んでいた建物の機
材等の倉庫として利用し、壁はコン
クリートの打ちっぱなしのままの状
態で、蛍光灯の本数も少なく薄暗い
状態です。薪を切る為の電動のこ
万力・空き缶などが雑然と置かれて
います。仕事や母の介護でその場所
に立てるのは二十時以降。

を使い、工夫を凝らすのですがなかなかうまくいかず苦労しています。

父が亡くなり、「作業場の一隅」を「父のいた作業場」に変えると、

この題名が良かつたとのことで日展に入選、親孝行娘として皆さんに褒められながらここ十数年この場所に立ち描き続けています。

身近で、いつでも見て描ける所として選んだ場所が、父との思い出を感じさせてくれる、私だけの場所として今に至っています。

や黒の使い方の勉強の為、我が家の大好きな番犬「小次郎」を描いています。小次郎はとてもしぐさが可愛く、素敵な目を私に向けてくれます。うまく! 描きたいのですがなかなか表現できません。

描き慣れていたと思っていた「たからもの」・干物もスムーズに手が動かない現実に驚き、一枚一枚にとても時間が掛かり苦労しています。

風景に挑戦したいと思い、スケッチ会に参加するのですが描きたい場所に巡り合わず、道端や片隅に目が向きます。ワクワクしない! 描き方がわからない! 描けないから描かなくかなと思い、「私のたからもの」

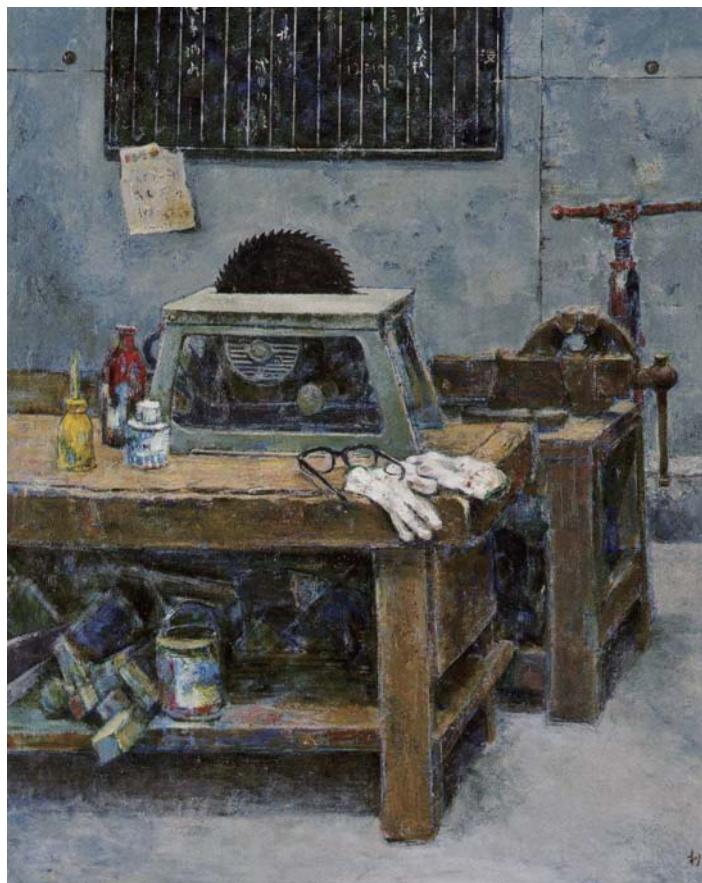
ん。だから尚一層風景を描く事に心が向かないようです。今後の私の課題です。

私だけの物をもつと奥深く表現できる

ようになりたい! 私にしか描けない場所、ワクワク出来る物を探し続けていきたいと思っています。



▲ 「ベランダの一隅」



▲ 「父のいた作業場」



▲ 「小次郎」